

そけいヘルニア 陰嚢水腫 Nuck 水腫

そけいヘルニアは小児外科が扱う疾患の中で最も多い病気です。そけいヘルニアにはタイプがありますが、小児で見られるのは、ほぼ全例「外そけいヘルニア」と呼ばれるタイプです。男の子で陰嚢水腫や精索水腫、女の子で Nuck 水腫と呼ばれるものも原因は同じであり、治療も変わりません。

そけいヘルニアには「嵌頓（かんとん）」と言って臓器がはまり込んでしまう合併症がありますので、そけい部のふくらみに気づかれたら早めに受診してください。

以前は下腹部を切って行うそけい法が主流でしたが、現在ではほぼ全例で腹腔鏡手術が可能になっています。腹腔鏡手術のメリットとして、反対側発生を防止できることと精管・血管、卵管といった将来重要な脈管へ侵襲を与えるリスクを低下させることができることが挙げられます。

3 kg以下の乳児から若年成人まで幅広く対応可能です。お気軽にご相談ください。